

## 日本を良くする



むろだて  
いさお  
室館 勲

(株式会社 潮流社)  
代表取締役社長

株式会社潮流社 代表取締役社長の室館勲です。今月号からカレントの巻頭言を務めさせていただく運びとなりました。改めて自己紹介をいたします。

1971年、青森県むつ市の兼業農家の次男として生まれ、現在51歳です。父は魚や野菜の移動販売の行商を営んでおり、少年期から市場での競り、得意先への販売について行くこともありました。学校以外の時間には田んぼや畑で母の農作業を手伝い、収穫した野菜や雑貨を販売する「室館商店」も手伝っていました。

中学からは新聞配達のアルバイトを始め、大雪の中でも早起きしてアルバイトに出かける生活をしていました。スポーツは小学生から高校卒業までバスケットボールに熱中。趣味として音楽鑑賞やビリヤード、スノーボードにも夢中になりました。

高校卒業を機に18歳で上京し、スーパーマーケットに就職。一年後、今の教育事業につながる、リーダー教育の仕事に就きます。15年間の修業を経て2003年、株式会社キャリアコンサルティングを設立、お陰様で今年で20周年を迎えます。

5年前、潮流社社長の矢野弾先生からのご指名で、潮流社社長を拝命します。私と矢野先生との付き合いは20年以上になります。矢野先生にはキャリアコンサルティングの教育の理念にご共感いただき、長年にわたり顧問を務めていただきました。「潮流社社長を引き継いでくれないか」というお話には恐れ多くて二、三度お断りいたしました。先生の熱意に負け、不肖ながらお引き受けいたしました。

3年前には、プロバスケットボールチーム「東京八王子ビートルズ」の運営会社、株式会社THTマネジメントを買収し、グループ傘下とします。

こうして現在、キャリアコンサルティング、潮流社、THTマネジメントと3社の社長を務めております。しかし、人生を振り返ると、まさか私が3社の社長になるとは想像すらしていませんでした。

私は子どもの頃から劣等感の塊でした。小学校に上がってもおねしょが治らず親に心配をかけました。また、あがり症が発症し（20歳で克服するまで続く）、人とのコミュニケーションはうまくいかず、仲間はずれ、いじめを受けました。

しかし、それらの経験から育まれたのが「弱い者の味方になる」という価値観です。努力によって人前で話せるようにもなりました。劣等感を持った弱い人間でも、努力によって変わっていけることを実感したのです。

そのため、どんなに劣等感を持っていて、人生を諦めかかった人にも「人生まだ諦める必要はない！」と心の底から言えます。この価値観が教育の仕事に大きく活かされていると思うと、何が自分の将来につながるかはわからないものです。

初めて教育事業に従事してからの34年間、私はずっと20代の若者たちに接してきました。夢に向かって頑張る若者、途中で投げ出してしまう若者、いろんな若者がいます。たくさん人の成長していく場面を目の当たりにしました。

そして「教育の力で、日本を良くしたい」という考えに至ります。矢野先生と出会ってから、世界情勢、経済、歴史など様々な学びました。世界から見た日本の長所も短所もたくさん学びました。そして「どのポジションにもリーダーがいて、人がいる」ということにも気づいたのです。私は若い頃は「日本を良くしていくのは、一部のエリートの人たちだろう」と思っていたのですが、そうではなかったのです。「一燈照隅、万燈照国」という言葉にも出会い「そうか、日本を良くしていくのは私たち一人ひとりなんだ」と気づくことができました。

ご存知のように、日本は敗戦後、GHQの様々な政策により弱体化させられました。その中の一つ「公職追放令」に注目し、私は「公職追放令の逆をしよう。一人でも多くのリーダーを世に輩出していこう。それが国益につながるんだ」と信じて20年間、若者のリーダー育成を続けてきました。

先月、2月11日には「第15回くまもり演説大会」（於…東京ビッグサイト）で20代の若者が演説をし、観覧に1,000人が集まりました。会場を埋めたのは多くの若者です。自分たちの力で社会課題の解決をするんだ、と力強く宣言する姿はとても心強かったです。今後とも、彼らのような若者を輩出し、「実力者が要職に就き、誠実に働けば、国はすぐに良くなる」そう信じて邁進します。

『カレント』は賀屋興宣先生の「左右に偏することなく、正しい世論を喚起する」という創刊理念に則り、その上で「日本を動かすリーダーが読む本」として「日本を良くする人財」「大局的に観ることが出来る若者」を育てることに寄与します。毎月自信を持って『カレント』を送り出せているのは、執筆してくださる先生方が、各方面の一線級の素晴らしい先生方だからです。

日本を良くすることを目指して、これからも本づくりに励んでいきたいと思えます。今後とも、よろしくお願いいたします。

